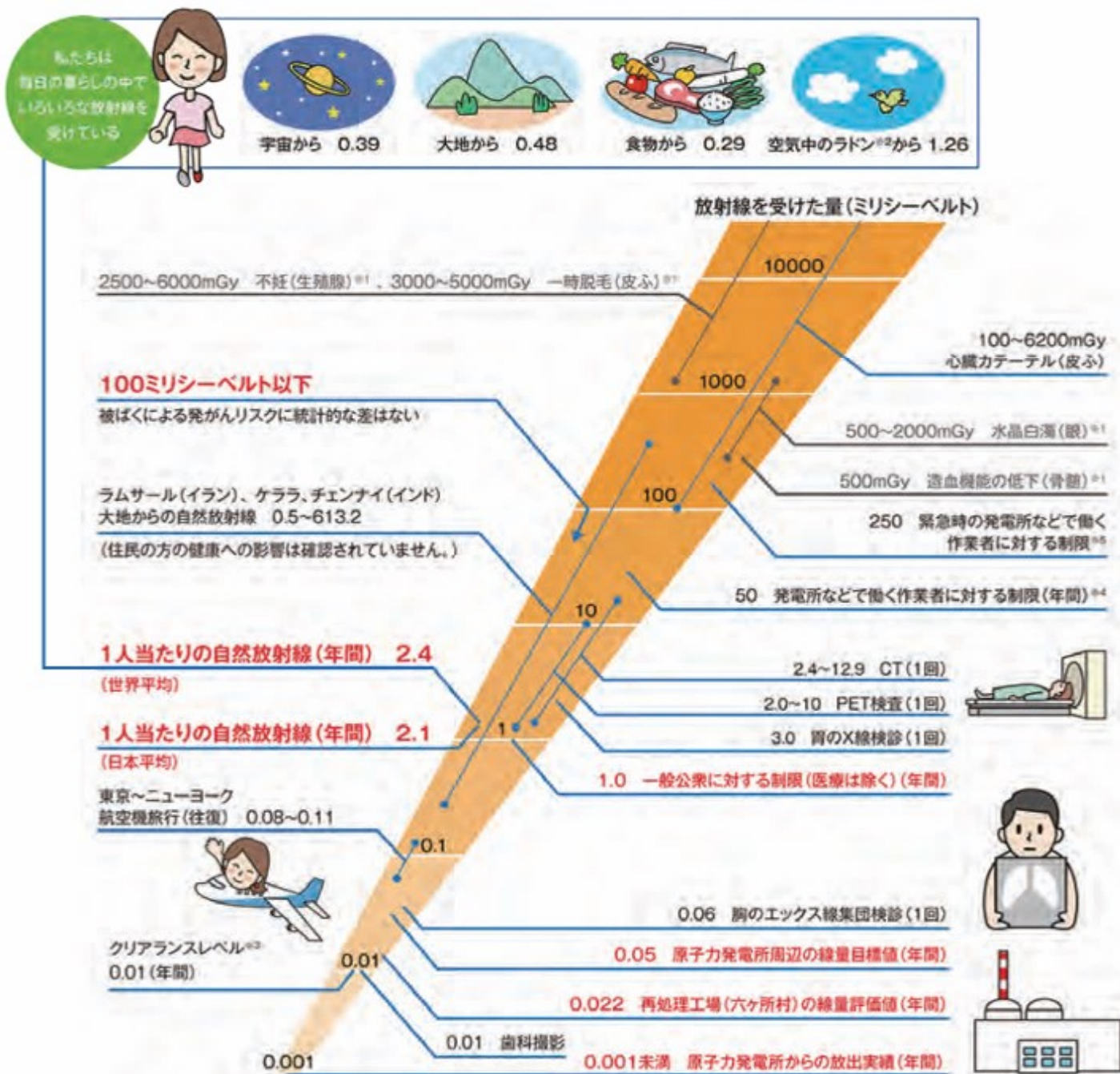


日常生活と放射線

日常生活に存在する放射線

私たちは普段の生活の中で、いろいろな放射線を受けています。それは自然界にある放射性物質や宇宙からくる宇宙線などの「自然放射線」です。また、病気の診断、治療などで使う「人工放射線」もあります。放射線を受けることを「被ばく」といい、自然放射線により受ける被ばく量の世界平均は、年間約 2.4 ミリシーベルトといわれています。このような普段受けているレベルの放射線なら身体に影響はありませんが、一度にたくさんの放射線を受けた場合は、身体に深刻な悪影響を与えることがあります。



※1 放射線障害については、各部位が均等に吸収線量1ミリグレイのガンマ線を全身に受けた場合、実効線量1ミリシーベルトに相当するものとして表記

※2 空気中に存在する天然の放射性物質

※3 自然界の放射線レベルと比較して十分小さく、安全上放射性物質として扱う必要のない放射線の量

※4 発電所などで働く作業員に対する線量は5年間につき100ミリシーベルトかつ1年間に50ミリシーベルトを超えない

※5 電離放射線障害防止規制等の改正により、緊急時の放射線を取り扱う作業員の緊急作業従事期間中の線量限度を2016年4月より250mSvに引き上げ